

平成26年度「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」 事業報告概要シート

No.	受託自治体名	支援プログラムテーマ
	佐賀県佐賀市	テーマ4：地域振興支援
取組タイトル	未来へ語りつぐ歴史のまち蓮池創生事業	
1. この事業に取り組んだ背景（地域の現状、抱える課題）		
<p>蓮池町は、藩政時代から城下町として栄え、活気にあふれていた。しかし昭和30年代の佐賀市への合併に伴い町が分割されてからは、市街化調整区域にも指定されていることもあり過疎化が進み、町の存続自体が危ぶまれている。</p> <p>一方、町には藩政時代からの伝統文化や歴史資源など、未来へと引き継がれるべきもの多く残る。伝統文化や歴史資源を今後のまちづくりの中に生かしていくべく、様々な取り組みを行う。</p>		
2. 事業の目的、目指した成果		
<p>① <u>支援プログラム実施に向けた組織づくり、関係機関のネットワーク化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内で新たなネットワークが形成され、団体間の連携が強化される。 ・世代間の交流が進み住民関係が深まり、地域行事や地域活動への参加者が増え、町に活気を取り戻すことができる。 <p>② <u>歴史資源の調査、整備</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民が調査に参画することにより、地域への関心を深め郷土愛を育むことができる。 ・地域の一員として地域づくりへの参画意識を高めることができる。 <p>③ <u>地域文化の伝承</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内に残る歴史や文化について学び得た知識を、子どもたちへ教授することにより次世代へ受け継ぐことができる。 ・地域への関心を深め郷土愛を育むことができる。 <p>④ <u>地域資源の観光化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・町外からの来訪者と地域住民とのふれあいの機会を作ることで、蓮池町の良さを感じ取ってもらうことができる。 ・観光協会等の施設に歴史散策マップや蓮池公園ガイドブックを配置し広くPRすることにより、来訪者の増加へと繋げる。 		
3. 事業の概要		
<p>① <u>支援プログラム実施に向けた組織づくり、関係機関のネットワーク化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・蓮池町地域連携協議会を軸に、支援プログラムの継続的な取組み体制を整えていく。 ・町内の各種団体、町民の協力を仰ぎ、町内一体となつてのまちづくりを進め、活動を通じ町内のネットワークを強化していく。 ・子どもから高齢者まで全世代が一緒に活動できるようにする。 <p>② <u>歴史資源の調査、整備</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内の史跡、資料の整理。 町内の史跡や神社仏閣などの調査資料をまとめ、編集委員会を中心に郷土史本を刊行する準備を行う。 ・歴史散策マップ、ガイドブックを活用 25年度の成果物である歴史散策マップ、蓮池公園ガイドブックを活用してウォーキングコースを設定する。 ・紙芝居の活用 		

町内メンバーを中心に、25年度成果物の「紙芝居」等を活用して、町の昔の様子等を子どもたち向けに紹介する。

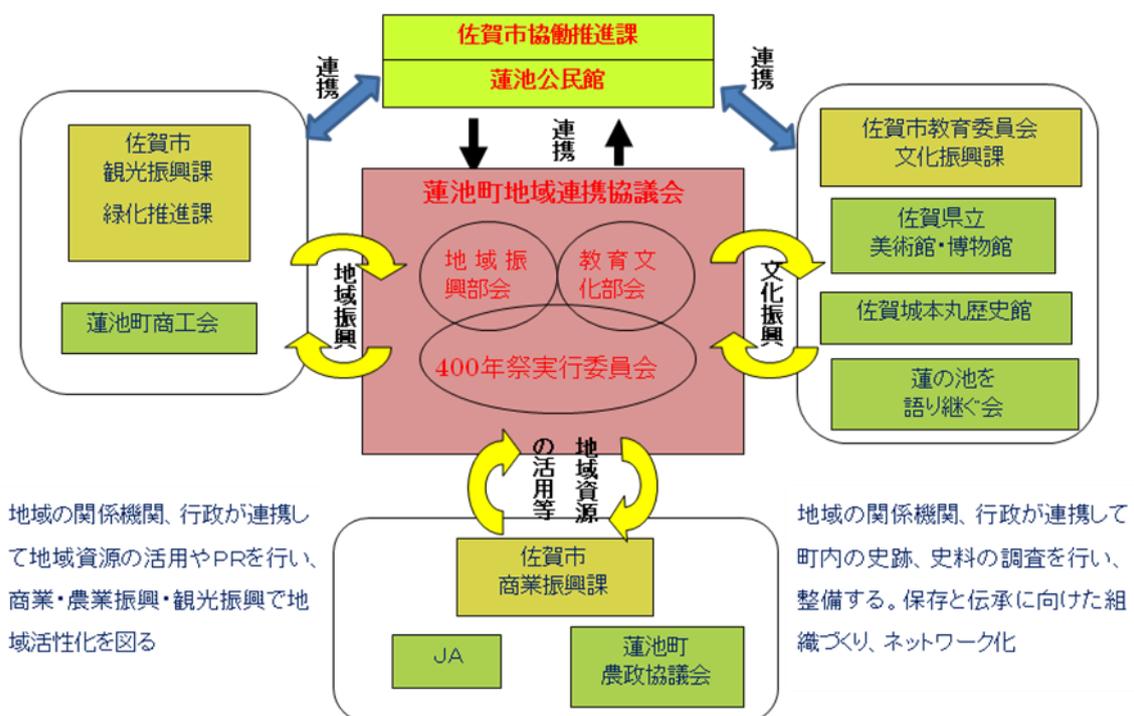
③地域文化の伝承

- ・郷土学、古文書講座の開催
- ・ボランティアガイド養成講座の開催
25年度に引き続き、公民館活動者や郷土に詳しい方の協力により、史跡案内ができる人材を養成し、ボランティアとして活用する。
- ・伝承文化の体験講座の開催
25年度に引き続き、鼓の胴の松飾り保存会、見島のカセドリ保存会等の協力により、地域の伝承文化を子どもたちへ体験学習させ、伝承していく。

④地域資源の観光化

- ・煎茶の祖「売茶翁」の生誕地であることを活用し、まちの駅として「売茶翁の駅」を定期的に開設する。
- ・藩政時代から続く観月会を開催する。

4. 計画立案段階及び取組実施段階における関係者、団体等との連携・協働体制



※それぞれの取り組みをリンクさせ、地域活動の好循環を生み出し、地域活性化につなげる

平成26年4月の市機構改革・組織改編により、公民館の主管課が社会教育課から協働推進課へ移行したことを受け、市各部署との連携をより密にしていける。事業がスムーズに実施できるよう、蓮池町地域連携協議会の中で特に地域振興部会や教育文化部会との連携を十分に図り、学校をはじめ県立博物館、県立美術館、佐賀城本丸歴史館との連携を強化する。

5. この事業によって得られた成果・得られなかった成果

(得られた成果)

「鼓の胴の松飾り」を通しての佐賀城本丸歴史館との繋がり、編集委員会の郷土史本の作製過程や古文書講座の開催での県立博物館、県立美術館との交流、そして学校との連携、町民同士のより深い関係が構築できた。

地域行事や地域活動に参加する住民の数が、この事業に取り組む前に比べ確実に増加し、町に活気が出てきた。

(想定していたが得られなかった成果)

町内の各種団体の役員交代等もあり、事業の引継ぎがスムーズにいかないこともあった。

町民の事業への参加は増えたが、自ら携わるという参画意識のほうは想定していた程には高まっていない。

6. 事業実施により構築できた取組プロセス、それを実現するためのノウハウ

学校側への働きかけと協議により、地域文化の伝承教室（ふるさと学級）等を授業の一環として取り入れてもらえるようになった。また、古文書講座では博物館学芸員との交流、郷土史本については県立美術館や県立博物館学芸員の協力を得た。さらには、蓮池町独特のお正月飾り「鼓の胴の松飾り」については、鼓の胴松飾り保存会による、これまでの継続的な「鼓の胴松飾り伝承教室」取り組みが広まった結果、この正月から新たに佐賀城本丸歴史館へ設置することができた。

様々な新しい取り組みや行事を遂行するうえで築いた関係を維持しつつ、今後も実行委員会方式で事業を組み立て、計画立案の段階から関係団体と連携を取っていく。地域人材の出番を意図的に準備し役割を与えることで自己有用感が高まり、継続的な活動へ繋がっていくことが期待できる。

7. 今後、事業の継続・展開の具体的な方針・戦略

- ・蓮池町地域連携協議会と蓮池公民館と協働推進課が密に連携を取りながら、今後の事業の継続を図っていく。
- ・この2年間の取り組みで得た成果物（歴史散策マップ、蓮池公園ガイドブック、紙芝居、郷土史本等）を活用し、町の活性化、発展に結び付けていく。
- ・子供たちや若い世代を対象とした、地域に根付いた学習活動（地域伝承文化教室等）を通して、次の世代の育成し、イベントの際や学習活動での地域ボランティアの積極的な登用により、地域人材の育成を図っていく。
- ・27年度に蓮池藩初代藩主 鍋島直澄公 生誕400年祭の開催を計画していたが、予算面から計画通りの実施は困難であり、直澄公生誕400年祭を含め事業の大幅な見直しが必要。